2018/08/19

「看とりとおくり」の集い（浜松市）

カタリバ

8月18日、浜松市鴨江アートセンターで「看とりとおくり」の集いがあった。主催するのは、NPO法人楽舎（浜松市天竜区春野町）。

楽舎は、今年の2月には連続7回の講座を企画したが、今回はその第2回目。8月に、3回の集いと1回の講演会がある。

この集いは、語ることがメインであり、なにか結論を出そうとか、知識の習得やワザの伝授が目的の集いではない。看とりとおくりの原点から、考えてみようというところ。

テーマが「看とりとおくり」だけに、なかなかディープである。こういう集いは、人数が多いと難しい。今回は6名ということで、適度に語りやすかった。

Oさんは、嫁ぎ先の親を16年間も介護し、そして今は実の両親の介護を6年間。流動食にして食べさせるだけでも、1時間はかかるという。夜中の2時に幻視があらわれて騒ぐレビー小体型認知症の人のお世話など、進んで体験を語ってくれた。女性にかかる負担はすごいものだ。

Tさんは、50代からの若年認知症にかかった妻の世話をされている。2年前、妻が心筋梗塞で亡くなりそうだという時、手作りの棺桶、手作りの位牌を安置するモニュメントを作ろうとされたという話。

Sさんは、東インドの出身。遺骨は灰にして川に流すというインドの古来の、供養のあり方の話。

Iさんは、クリスチャン。看とりも済み、教会での葬儀のこと。そして、クリスチャンの亡くなるときの懺悔のことなど。

老老介護、胃ろうのこと、誤嚥性肺炎、地域と葬儀のこと、お寺との関係、葬儀のお経のことなど、幅広く語り合った。

次回の、8月25日は、臨床宗教師の僧侶による講演。そして、8月27日と8月31日にも、語り合いの場が持たれる。いずれも、14時から16時。会場は、鴨江アートセンター（浜松市中区鴨江町1番地1　）。参加費無料。問い合わせは、NPO法人楽舎まで　担当：池谷（TEL080-5412-6370）

ところでこの鴨江アートセンターは、もと警察署だった。建物内には、留置所もあった。

それをこうして、講座室、展示会場、語り合いの場に使われるようにした。アーティスト・イン・レジデンスして、創作活動の場にも使える。文化登録団体になると170円／1時間。ピアノも置いてある。浜松駅から徒歩15分。

浜松市北部生きがい特派員　池谷　啓